



篠小だより

令和4年6月30日

7月号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 Tel.045-401-9532 fax045-431-9538
横浜市立篠原小学校 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinohara/>

半夏生

校長 松久保 伸子

正門を入ると左手側に5年生がJA横浜職員の皆様方からレクチャーをいただきながら植えた稲の苗が、風にそよんでいます。今年度は地元横浜の米「はるみ」を植えています。小さい田んぼではありますが、5年生が泥だらけになりながら田植えをし、これからもたくさん世話をしていくことを考えると、なんとか丈夫に育ててほしいと願わずにはられません。



この田植えの作業は、七十二候の一つ半夏生（はんげしょう）とよばれるこの時期までに行うことが大事なのだそうです。2022年の半夏生は7月2日土曜日。夏至から数えて11日目。農家の方々にとってはいそがしい時期を過ごしてきて田植えも終わり、ほっと一息をつく時期という意味もあるのだそうです。もちろん梅雨の季節でもありますので、農作業ができない日々も多いのでしょう。しかし、私はこの「ほっと一息つく」時期がきちんと設定されている暦のすごさに、驚きました。そういえば畑の「しのファーム」も地域の皆様の手伝っていただきながら2年生と個別支援級が野菜を育てていますが、5月前後には雑草を抜き耕運機を動かし、野菜の苗を植えつけるなど多くの作業がありました。そのかいあって、今は黄色や紫

の花が咲き、早いものは小さな実がなっています。ぐんぐん育ちつつあり、作業はほっと一息つく状態です。

私が教員になりたての頃の学級目標には「全力投球」の文字が躍っていました。どんなことにも全力で取り組み、力を出し切ることを自分に課し、そして子どもたちにもそうあってほしいと考えていました。でもいつしか、「自分と同じ時に全力投球できない子どももきつっている、そんなときに全力投球を求められたらその子はすごくつらいのではないかなあ。」と考える様になりました。ずっと走り続けるのではなくひと休みしながら長く歩み続ける、全力を出すタイミングの子どもを見つけたらそっと背中を押す、そんなスタイルに落ち着いていきました。「ほっと一息」は長く走り続けるためにとっても大切な作業です。先人たちはそんなこととつくの昔に気づいて、半夏生とともに生活に取り入れていたのですね。ひと休みしてほっと一息つきながら、子どもたちといっしょに長く走り続けていきたいと思えます。

先日なんと梅雨が明けてしまい、熱中症が心配になる暑さが続くと予想されています。この暑さのなか、夏休み前の1か月を安全に過ごすために気を緩めることができない毎日が続きますが、ほっと一息ついて体と心を休めながら7月を乗り越えていこうと思います。